

## 西南暖地に向く早生モモ新品種「さくひめ」

—冬の気温が高くても栽培可能で品質良好な品種—

日本のモモが春に正常に開花するためには、冬に一定時間以上低温にさらされる必要がありますが、今後温暖化が進行すると、冬の低温が不十分となり、モモの生産が不安定になる産地があると見込まれています。そこで開花に必要な低温にさらされる時間（低温要求時間）が主要品種の約半分に短縮されたモモ新品種「さくひめ」を育成しました。温暖化により冬の気温が高くても安定した開花と結実が見込めるのでモモの安定生産に貢献します。

### ☆ 技術の概要

1. 低温要求時間は育成地（茨城県つくば市）では 555 時間で、日本の主要品種の約半分です（表 1）。温暖化により冬の気温が上昇しても、安定した開花が見込めます。
2. 樹勢は強く花芽は多く着生し、花粉を有するため受粉樹は不要で結実良好です（表 2）。
3. 開花盛期は育成地では 3 月下旬と早く、早生の主要品種である「日川白鳳」より 9 日程度早くなり、収穫盛期も「日川白鳳」より 5 日程度早くなります（表 2）。
4. 果実は重さが 250g ほどで、果肉色は白色、糖度は 12～13% でいずれも「日川白鳳」と同程度で、酸味は pH4.6 程度と少なく、食味良好です（表 2、写真 1）。



写真 1 「さくひめ」の結実状況

表 1 「さくひめ」及び主要品種の低温要求時間

品 種	低温要求時間（時間）
さくひめ	555
日川白鳳	1173
あかつき	1176
川中島白鳳	1208

農研機構（茨城県つくば市）における  
2012～2015年（3年間）の平均値

表 2 「さくひめ」の生育と果実特性

品 種	樹勢	花芽の 着生	花粉	開花 盛期	収穫 盛期	果実 生育日数	果実重 (g)	果肉色	糖度 (%)	酸度 (pH)
さくひめ	強	多	有	3/27	6/26	91	253	白	12.8	4.62
日川白鳳	強	多	有	4/5	7/1	87	250	白	12.2	4.34

農研機構（茨城県つくば市）2013～2015（3年間）の平均値 無袋栽培

### ☆ 活用面での留意点

1. 早生品種の栽培割合の高い西日本の産地を中心に全国で栽培が可能です。
2. 「さくひめ」の苗木は平成 29 年度秋季より販売されています。
3. 詳細については、農研機構果樹茶業研究部門にお問い合わせ下さい（電話：029-838-6466）。  
（農研機構 果樹茶業研究部門 品種育成研究領域 核果類育種ユニット長 八重垣 英明）